

新しい学校づくりが、いよいよ設計の段階へ！

～新しい学校の校舎などの設計を担当する事業者が決まりました～

御所市では、令和13年4月の開校を目指し、市内の小・中学校を再編して、新しい義務教育学校の整備を進めています。このたび、新しい学校の校舎などの設計を担当する事業者として、「石本・シード設計共同体」が選ばれました。

事業者の選定には、学校施設の設計に必要な知識や技術だけでなく、これからの学校づくりに対する考え方や提案内容などを総合的に審査する「公募型プロポーザル方式」を用いました。これは、複数の事業者から提案を募り、その内容を比較検討して最も適した事業者を選ぶ方法です。今回の事業者選定により、新しい学校づくりは、これまでの構想や計画を具体的な校舎や施設の形にしていく段階へと進みます。

新しい学校は、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を通して、一貫した教育を行う「義務教育学校」です。現在の御所小学校と御所中学校の敷地を一体的に活用し、子どもたちが安心して学び、仲間とともに成長できる学校を目指します。令和8年3月に策定した「新しい学校づくり基本計画」では、一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、多様な学びに対応できる教育環境の整備を基本的な方向性としています。今後の設計段階では、この基本計画をもとに、教室や体育施設などの配置をはじめ、さまざまな学習活動に対応できる空間づくりや、安全で快適な学校生活を支える設備などについて、具体的な検討を進めていきます。

また、これまでアンケートや意見交換会などを通して、子どもたち、保護者、教職員、地域のみなさんから、新しい学校へのさまざまなご意見をいただきました。こうしたご意見も参考にしながら、子どもたちにとってよりよい学校となるよう、設計を進めていきます。今後も「新しい学校だより」を通して、設計の進捗や検討状況をお知らせしていきます。



これまでの経過や最新の
情報等は、ホームページ
でご覧ください。



※イラストはイメージ図であり、確定したものではありません。